



第66回 卒業証書授与式 ～91名の卒業生が大空に羽ばたきました～

今年は雪がとて多く、春の訪れが本当に待ち遠しい冬でした。しかし、そのような中でも、雪を被った桜の木々の芽が確実に膨らみを見せ、3年生の卒業を惜しみながらも、力強くエールを送っていることを感じました。

3月14日（木）に第66回の卒業証書授与式を滞りなく挙行し、91名の3年生が学び舎を巣立っていきました。体育館には担任の呼名に凜として返事をする姿、あふれる涙をこらえて精一杯に歌声を響かせる姿があり、また、式後の教室での学級活動では、これまで絆を深めてきた仲間・担任の先生と最後の時間を過ごし、感極まって号泣する姿もありました。4月からはそれぞれの場所で、自分らしさを発揮し、充実した高校生活を送ってほしいと思います。山形七中に確かな足跡を残した、91名の前途にたくさんの幸せが訪れることをお祈りしています。

【 第66回 卒業証書授与式 校長式辞 】

やわらかな日差しとともに桜の蕾もふくらみを増し、白川の楽しげなせせらぎの音が春の到来を告げています。

本日、PTA会長 國分 亮様をはじめ、日頃から本校をご支援いただいているたくさんの来賓の皆様のご臨席を賜り、令和六年度の卒業証書授与式を挙行できますことに心より感謝申し上げます。晴れて山形市立第七中学校を巣立つ 九一名の三年生の皆さん、卒業、おめでとうございます。

先月末に大船渡市で発生した平成以降最大規模の山林火災も今週に入り鎮圧が宣言されました。被災され避難生活を余儀なくされていた多くの方々の日常、そして“二重被災”された方々の苦難に思いを馳せると胸が痛みます。あらためて「当たり前の日常のありがたさ」をしみじみと感じながら、本日、卒業生の皆さん一人一人に卒業証書を手渡すことができました。安堵と感謝の気持ちでいっぱいです。

いま皆さんが手にした卒業証書は、中学校三年間の「学びの証し」であり、これから「漕ぎ出す」希望に満ちた新たな世界へのパスポートでもあります。皆さんの持ち前の その明るさと行動力、そしてご家族を始めとする周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、力強く歩んでほしいと心から願っています。

三年生の皆さん、次の詩を覚えていますか。

今日からはじまる
みんなに会えてよかった
すてきなものが そばにあること
みんながいて きづいた
今もどこかで命がうまれる
子犬も小鳥も草の芽も
今日からはじまる
何か いいこと



高丸もと子さんの「今日からはじまる」という詩です。3年前の入学式で、学年主任の岡田先生が、「みんなに会えてよかった、すてきなものがそばにあること みんながいて気づいた」と言える仲間になってほしいと願い皆さんに贈った詩です。そして、名付けられた学年名は「全学年」。大村はまさんの「灯し続けることば」の中に、次のような一節があります。『できるとか、できないとかということを忘れ、全力を奮って打ち込んでやっていく。持っている力をありったけ使った先に、大きな成長が待っている。持っている力をみな使ってしまうことが、次の力を得るもとになる』。このことばの思いを託した、全学年。その学年名の通り、何事にも本気、本腰で挑むパワーと全力で打ち込むからこそ零れる笑顔が素敵な学年です。そして、人が好きで仲間を大事にする、温かい学年です。

最高学年として、力強く学校を牽引し、たくさんの感動を生み出してくれたこの一年でしたが、私にとって、ことさら印象に残

っている皆さんとの思い出を三つ紹介します。

一つ目は、好天に恵まれた首都東京を舞台に、学年として大きく成長した修学旅行。旅行前日まで電車の乗り継ぎを入念に調べていた班長の気遣い、研修場所への移動の電車の中でご高齢の方に座席をゆずったり体幹を鍛えるためだからといって仲間を座らせ自分は立ち放しの心遣い、研修の度に褒められるあいさつ。思い出される皆さんらしさは数知れず。中でも、学年の絆を試された印象深い場面は、二日目の研修が始まろうとする朝でした。前日の班行動が大きな課題となっていたこともあり、班長の顔には明らかに不安の色が見えました。そんな空気の中、ロビーで急遽、班長会が持たれたときのこと、「みんなでやり通せるか不安だけど、私は班の仲間を信じる。だからがんばろう」。ある班長のことばでした。慣れない東京の地で、大切な思い出になる修学旅行で、責任感いっぱいの班長たちの決意。ことば通りに、ちょっとした失敗もみんなで乗り越え、大きな時間の遅れがあってもみんなで待った。全学年らしい成長を肌で感じた瞬間でした。

二つ目は、行事で見せる活気漲る姿です。残暑厳しい時期を避け、全校生で思う存分競技を楽しみ、笑顔溢れる運動会にしたいと、開催時期を十月に変更しての大運動会。直前の定期考査と直後の合唱コンクールを考慮し、限られた時間で最高のものを創れるようにと、応援合戦を行わないという苦渋の決断をしました。応援は競技中のみという当初の予定から、急遽プログラムに入れた両組による「応援発表」。短期間の練習であったにもかかわらず、その迫力とクオリティの高さに驚きを隠せませんでした。より良いものを、手を抜かずに全力で創ろうとする三年生の心意気を感じました。さらに、それぞれの学級で数々のドラマを繰り広げ、強めてきた絆を発揮する晴れ舞台、合唱コンクール。まさに、全身全霊で歌いきる三年生の合唱は圧巻でした。後輩に、一年後・二年後に「あになりたい」という目指したい姿を示してくれました。また、「真剣に取り組むこと」は「格好いいこと」で「価値あること」だということを、その姿で、後輩に伝えてくれました。この後、「旅立ちの集い」で、皆さんらしい歌声を久しぶりに聞くことができるのを楽しみにしています。

そして三つ目は、「利他の心」で地域に貢献しながら、自分を高めたボランティア活動の取り組みです。

「紅花再生の里」である本地区ならではの「紅花摘みボランティア」への参加や、各月の七日を「SEVEN DAY」と設定し、全校生が通学路のゴミを拾いながら登校する取り組みは今年度ならではの姿です。また、今年度も地区内の音楽祭や文化祭に数多くの皆さんが運営スタッフとして積極的に携わってくれました。その活動の中心にいたのは、やはり三年生でした。上級生が行動で示し、それが、後輩にとっての憧れとなる。七中の歴史に、確かな足跡と新たな伝統を残してくれました。

卒業式に際して、四月から始まるそれぞれの新しい環境で、これからの未来をたくましく生きる皆さんに贈りたい饗のことばがあります。それは、「運」と「縁」と「恩」です。ある本を読んでいて、偶然に出逢ったことばです。誰も「運」の良さを願います。神や仏に頼ったり、パワースポットを訪れたりしながら、誰にでも、等しく「運」が巡ってくるように願います。では、どうすれば「運」をつかむことができるのでしょうか。運を左右するのは人の「縁」だということです。縁が重なるから運が引き寄せられる、と。そして、その縁を深めるのは「恩」。おごるのではなく、今の自分があるのは、自分を支えてくれている多くの方々のお陰だと感じる感謝の念が人と人の縁を深めていくのです。「恩を感じる心がけで縁が深まり、縁が縁を呼んで運が巡る」。出逢いと別れが交錯する新たな春の門出に、卒業生の皆さんの運と縁と恩が、それぞれの輝かしい未来を切り開いていくことを願います。

保護者の皆様、本日はご出席いただき、誠にありがとうございました。今日に至るまで、お子さまの健やかな成長を願い、慈しみ、愛情いっぱいに成長を見守ってこられた 保護者の皆様の喜びも、いかばかりかと拝察いたします。教職員一同、お子さまの晴れの門出を心からお祝い申し上げますとともに、本校の教育活動へのこれまでのご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

91名の卒業生一人ひとりが、それぞれに自分らしい花を咲かせ、稔り多き人生を送られることを、心から願って、式辞とします。

令和七年三月十四日 山形市立第七中学校 校長 沢口 肇



【答辞】 宗田 陽翔 さん



卒業担任の先生方



【送辞】 東海林美羽 さん



旅立ちの集い



最後の歌声 ～ 想いを込めて ～



♪卒業生合唱「YELL」



涙の退場



「全学年」～つらい時こそ、前へ～



お世話になった担任の先生方

＊＊令和7年度 山形市駅伝競走大会に向けて始動しています＊＊

令和7年度の山形市駅伝競走大会が、来る4月12日（土）に「えがおネッツフィールド」にて開催されます。本校では昨年の11月にチームを発足させ、清掃の時間を使っての練習や現地に出向いての試走を行い、力を高めてきました。



←黙々と練習に励むメンバーたち
（1年生13名・2年生9名）

昨年は、男子チームが11位入賞、女子チームが7位と健闘しました。今年のチームも、自分を成長させるべく、苦しい練習に自ら希望した選手の皆さんです。モチベーションを高くもち、励まし合い、支え合って黙々と走り続ける姿から、4月にはきっと素晴らしい成果が見られることを楽しみにしているところです。健闘を期待しています。

＊＊＊＊＊ 第2回 学校運営協議会を開催しました ＊＊＊＊＊

2月25日（火）に第2回目の学校運営協議会を開催しました。この会では、今年度の学校評価（本校の教育活動に対する生徒と保護者の皆さんのアンケート・教職員の自己評価）の結果を開示し、委員の皆さんからのご意見や感想をいただきました。また、今年度の地域学校協働活動についての振り返りと次年度へ向けての展望について話し合いが行われました。

今年度も春の生徒総会において「ボランティア活動」が活動の柱として承認され、学区内の3つの地区と連携しながら、多くの生徒が地域に出向き、活動を行いました。その中で、「頑張っている中学生の姿に元気をもらった」「自主的に活動していることが素晴らしい」とお褒めの言葉をたくさんいただき、生徒たちの成就感や満足感につながりました。

今年度の成果を生かし、次年度も、地域の皆さんとのつながりを大切にしながら、地域の一員として自分たちにできることを生徒たちが自ら考え、行動するボランティアの和が更に広がることを期待しています。活動を行うにあたり、大郷・明治・羽羽地区のコミュニティーセンター長様、連合会会長様、事務局の職員の方々に大変お世話になりました。

＊＊ 学校評価アンケートへのご協力 ありがとうございました ＊＊

12月に生徒の皆さんと保護者の皆さんを対象に、今年度の本校の教育活動についてのアンケートを実施させていただきました。また、その結果を受けて、教職員による自己評価も行いました。全体的に、どの項目に対しても約8割から9割の皆さんが肯定的に回答してくださいましたが、一方で次年度への課題も見えてきました。①生徒の皆さんの家庭学習の充実、②メディアコントロール、③ボランティア活動の更なる充実、についてです。特に①と②については、教職員も同じように捉えている結果となりましたので、次年度はご家庭と更に連携し、課題の解決に努めて参ります。

なお、集計結果・考察につきましては、今年度も冊子での配布ではなく、本校のホームページに掲載させていただくことといたしましたので、ご覧いただきたく、よろしくお願いいたします。

＊＊＊＊＊ 各会計の監査が無事に終了しております ＊＊＊＊＊

今年度の各会計（学年関係・PTA関係・体育振興会・教育後援会等）の監査が、3月3日（月）と3月24日（月）に本校にて行われました。監事の皆さまには、お忙しい中、ご来校いただきありがとうございました。会計簿・通帳を見ていただき、特に問題なく終了しております。決算書と監査の結果につきましては、次年度のPTA総会・体育振興会総会・教育後援会総会の席でご報告させていただきます。

3月14日（金）の卒業証書授与式、そして、3月18日（火）には修了式を行い、令和6年度の本校の教育課程を無事に終えることができました。どんな時も生徒たちはひとつひとつの活動に素直に、そして、前向きに取り組んでくれました。

3年生が「学校の顔」としての役割をしっかりと果たし、いつも後輩の手本となっていた姿、そして、その姿を見て憧れをもち、成長してきた1、2年生の生徒たちです。学校の伝統がこのようにして創られ、繋がっていくことを実感したこの一年間でした。

保護者の皆さま、地域の皆さまには、今年度一年間、山形七中を温かく見守り、たくさんのご支援・ご協力をいただきました。教職員一同、心より感謝申し上げます。生徒たちにとって有意義な春休みとなるよう、祈っております。

総合文化部生徒による寄せ植え→

